

農林水産大臣賞受賞

～小さな里山の大きな挑戦～

いっばんしやだんほうじんたけだぶんかきょうえいかい

受賞者 一般社団法人竹田文化共栄会

(福井県坂井市)

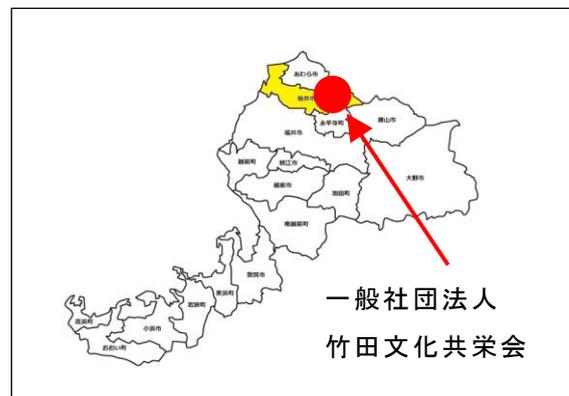
■ 地域の沿革と概要

一般社団法人竹田文化共栄会（以下、「共栄会」という。）が在する竹田地区は、福井県北部の石川県と県境を接する坂井市丸岡町に位置している。

本地区は、丈競山（たけくらべやま）や火燈山（ひともしやま）などの山々に囲まれ、盆地状に開けた山間地域である。

歴史をひもとくと、およそ800年前から白山信仰の吉谷寺を中心に栄え、源氏の末裔が移り住んだとも言われ、400年の歴史を持つ福井県最古の住宅である「千古の家」（江戸時代初期の建立）が今も残り、往時の豊かな生活が感じられる。また、特産品として、青味が残るように乾燥した「みどり干しゼンマイ」、「清流竹田米（コシヒカリ）」及び「竹田の油揚げ」などがある。

第1図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

本地区は、明治時代に「山竹田村、吉谷村、山口村及び上竹田村」の4村（集落）により誕生し、明治6年には本専寺に簡文小学校（後の竹田小学校）が開校、明治22年には竹田村となる。豊富な山林資源を活かして、木炭の生産や銅山により人口は約2千人を数えていた。

共栄会は、こうした山林資源の保全、森林経営等を行う目的で昭和3

第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	旧市町村単位の集団等
地区の性格	機能的な集団等
農家率 (内訳)	39.2%
	総世帯数 125戸
	総農家数 49戸
専業別農家数 (内訳)	(販売農家) 20戸
	専業農家 5戸
	1種兼業農家 0戸
	2種兼業農家 15戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 633ha
	耕地面積 10ha
	田 9ha
	畑 1ha
	耕地率 1.6%
	農家一戸当たり耕地面積 0.2ha

9年に設立された。

しかし、木炭離れや銅山の閉山などにより、徐々に人口は減り、現在では360人ほどとなった。若者世代の減少は著しく、苦渋の決断の結果、平成22年に竹田小学校と丸岡中学校竹田分校は休校、4年後の平成26年には地区住民の総意により廃校とした。

また、本地区は一級河川竹田川の上流に位置し、市民の水がめである「龍ヶ鼻(りゅうがはな)ダム」があることから、地区の山林や田畑が放置され荒地となることは、災害防止また飲料水の確保にも多大な影響が想定されたのである。

こうした人口減少と担い手不足が続く中、集落機能の維持、いかに地域を活性化させるかについて、地区の住民、市も早くから危機感を持ち、課題の解決について検討する必要性が生じた。共栄会は熱心なメンバーが多く、地域づくりのために多様な主体が連携することで、お互いが有機的(密接)に結びつき、「竹田が元気になる多様な取り組み」を実行すべき状況下にあった。

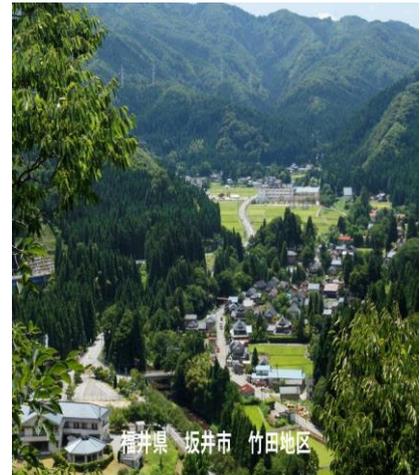


写真1 竹田地区を望む

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

共栄会では、地区の人口減少、竹田小学校等の廃校、地区の山林や農地の荒廃防止、担い手不足などから、「自分たちのふる里を良くしたい」という思いを実現するために、既存施設等の利活用を含めた将来のビジョンづくりに取り組みました。

ビジョンの策定にあたっては、「竹田地区を元気にしていこう!」というスローガンを掲げ、地区内関係者、学識経験者、大学生、緑のふるさと協力隊などで構成する「将来ビジョン検討会」を組織し、住民アンケート調査結果を踏まえ、多様な意見を集約し、平成25年度末に「竹田の里将来ビジョン」(以下、「ビジョン」という。)を策定した。

～「竹田の里将来ビジョン」の3つのキーワードと運営方針～

- ◆キーワード1 【こども・グリーンツーリズム】



写真2 共栄会総会の様子



写真3 将来ビジョン

こどもや若者の夢と心を育む竹田の里

- ・旧竹田小学校を宿泊施設に、プレイパークの整備等
- ・体験プログラムづくり

◆キーワード2 【食】

竹田の恵みを五感で味わう食の里

- ・旧保育所をレストランに
- ・特産品づくり、「ここでしかない本物」のおもてなし

◆キーワード3 【福祉】

竹田を守り継いだお年寄りが楽しく健康に暮らす幸せの里

- ・介護・医療のしくみづくり

【運営方針】

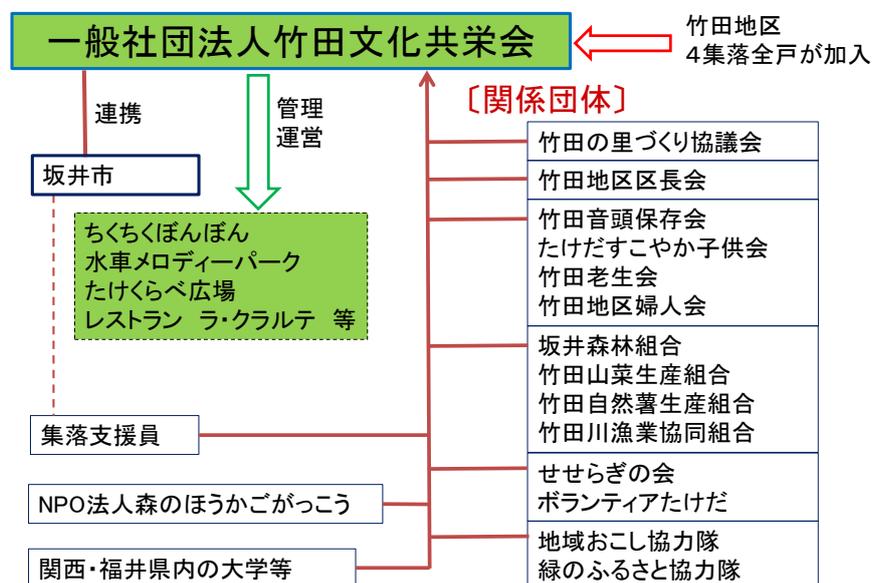
- ①住民が参加できること、雇用も生まれること
- ②竹田全体や各地区が潤うこと
- ③竹田とヨソモノが協働して運営できる体制をつくること

(2) むらづくりの推進体制

共栄会には、本地区のほぼ全戸（108戸）が加入しており、役員は各集落の区長をはじめ、坂井市竹田農山村交流センター（以下、「ちくちくぼんぼん」という。）などの常勤職員、地域活動に積極的に参加できる15名のスタッフで構成されている。

また、ちくちくぼんぼんの関係者は21名で、30歳代が3名、40歳代が1名、50歳代が1名、60歳代以上が16名である。常勤スタッフは6名（男性が3名、女性が3名）で、おばあシェフが16名、その他（臨時職員）が5名となっている。

第2図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

本地区は、行政（福井県、坂井市）と協働のもと、共栄会が地区内で中心となり、関係団体との調整や活性化への取組内容の企画を担い、地区内の関係団体と連携しながら各種行事を進めている。地区内の関係団体を構成員として束ね、地域運営を主導する役割を果たしている。

また、共栄会は坂井市との密接な連携により、地区内各施設の指定管理を受託・運営している他、イベントへの支援、地域おこし協力隊等の人材派遣、協力等を積極的に受け入れ、多岐にわたり活動をしている。

第2表 共栄会による主な運営施設

施設名	概要	業務内容	委託者
・坂井市竹田農山村交流センター (ちくちくぼんぼん)	宿泊・体験 ・学習	管理運営	坂井市
・たけくらべ広場	キャンプ・イベント	管理運営	坂井市
・竹田水車メロディーパーク (たけだや)	公園兼 農産物直売所	管理運営	坂井市
・レストラン「ラ・クラルテ」	レストラン	管理運営	坂井市
・千古の家（菖蒲園）	住宅・庭園	維持管理	坂井市
・じょんころ広場 他	草刈・剪定・ 除草・雪つり	維持管理	坂井市
・龍ヶ鼻ダム（治水） ※周辺は水源林	草刈・雪つり	維持管理	福井県

2. 農業生産面における特徴

(1) 農業生産面における取組

地区の農地面積は、水田が8.7ha、畑が1.3haとなっており、竹田川の清流を利用したコシヒカリ「竹田米」や自然薯、野菜等が生産されている。

竹田山菜生産組合が生産するゼンマイ、ワラビなどの山菜や、自然薯、丸そば（地区独特の製麺法によるそば）、「竹田米」などは、農産物直売所（たけだや）で販売しており、直売所の売上額は約1千万円（5カ年平均）となっている。また、こうした農産物を宿泊・飲食（ちくちくぼんぼん、レストラン等）などで提供することにより、地元農産物の消費拡大につなげている。

共栄会は、所有する山林の管理を「坂井森林組合」に管理委託し、適切

に管理はしているものの、民有林の管理とゼンマイ生産の効率化（通作）のために、林道整備について県へ要望するなど森林経営の改善に努めている。

（２）後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進

共栄会では、これまでに地域おこし協力隊等（１３名）を受入れ、地域のイベントや行事、直売所の支援等の地域活動に従事してもらうことにより、将来的な地域の後継者育成に努めている。また、「ちくちくぼんぼん」スタッフとして、若い女性を採用し、企画や運営、受け入れなどをまかせ、その能力が発揮できるよう努めている。

さらに、女性の活躍の場として、「ちくちくぼんぼん」では、元地域おこし協力隊の男性シェフと、地元の女性スタッフ（「おばあシェフ」１６名）が、竹田の地元食材を利用した食事を地域の伝統食として提供し、大変な好評を得ている。

また、男性スタッフは、自然体験プログラムの一つである「龍ヶ鼻ダム」におけるカヌー体験（冒険ダムカヤック）の指導や調理等も行っている。



写真4 ちくちくぼん
ぼんのスタッフ



写真5 ちくちくぼんぼん
の料理と「おばあシェフ」



写真6 カヌー体験
（龍ヶ鼻ダム湖にて）

3. 生活・環境整備面における特徴

（１）生活・環境整備面の取組

共栄会の取組は幅広く、市道や林道の除草作業への協力や、地区のシンボリック的存在になったしだれ桜の植樹（約700本）、沿道への花の植栽など、景観形成にも取り組んでいる。

平成13年度には、竹田地区住民の生活環境向上と公共用水域の水質汚濁防止を目的とした、農業集落排水事業（旧町単）により、上下水道が整備され、水洗トイレの設置が可能となり、Uターン・Iターンなどの移住者も安心して生活ができるようになるなど、住みよい環境づくりに努めている。

（２）生活条件の改善、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流

■体験型宿泊施設「ちくちくぼんぼん」を核とした交流事業

平成26年度より、「都市農村共生・対流総合対策交付金(農水省)」を活用し、子ども農山漁村交流を中心とした、イベント・地域づくりに取り組んできた。

特に、「ちくちくぼんぼん」オープン後は、県内はもちろん、県外からの利用者が飛躍的に伸び、交流人口の増加、地元雇用の増加(おばあシェフ等21名)に大いに貢献している。



写真7 ちくちくぼんぼん(宿泊棟)の全景

各教室は、宿泊場所になり、卒業生には思い出も感じられ、来所者には懐かしい雰囲気の中に新しさもある施設となっており、体育館や運動場も備えていることから、スポーツ少年団や合宿等の需要も高い。

また、坂井市と交流都市のある東京都品川区の子どもとその保護者を対象にした夏休みの企画では、竹田の人と自然の豊かさが感じられるなどの定評がある。

第3図 ちくちくぼんぼんの交流人口(人)

	H28	H29	H30
受入人数(交流・体験等)	14,208	20,098	22,500
うち、宿泊者数	2,817	3,500	3,240

■大学生と地域住民との協働で生み出す新たな縁(えん)

「大学生と地域住民と行政が連携しながら、地域課題や社会問題を独自の目線で解決策を考え、行動する実践型の地域活動を行おう」との理念で行われる活動は、「竹田Tキャンプ」(Tは、竹田のTと「Think」のT)と呼ばれ、夏休みや春休みの長期休暇を利用して、主に関西方面の大学生が地区の空き家に住み込み、ワークショップや地域づくりに挑戦している。



写真8 Tキャンプ(交流会)



写真9 しだれ桜まつり

■来訪者がある「竹田しだれ桜まつり」を通じた魅力の発信

竹田地区では、約30年前から新たな竹田の魅力を作ろうと、しだれ桜

の植樹を進めてきた。今ではその桜が成長し、一帯がピンク色に染まる見応えのある景観が生み出され、来訪者数は7万人をこえ、地区の人口の200倍をこえる人たちが訪れるようになった。

(3) 地域への定住促進、女性の社会参画の促進

これまで地域おこし協力隊（6名）、緑のふるさと協力隊（7名）を積極的に受け入れてきており、隊員は地域のイベントや行事、農作業等の手伝い、共栄会が指定管理を受けている農産物直売所（たけだや）の営業支援等に関わりながら、地区の一員として地域づくりを学んでいる。

こうした取組により、その内3名が地区に住み始め、定住したメンバーも共栄会のスタッフ等として、地元で溶け込み働き始めている。

また、過疎化に伴い、空き家の活用も課題となっていることから、共栄会では福井県補助事業を活用し、空き家をシェアハウス「さわや」として改修し、女性向けにお試し移住ができる拠点の整備を行った。

他にも、しばらく木工体験施設として使用していた旧保育所が、廃所となった後、市が改修し、レストラン「ラ・クラルテ」として生まれ変わった。本地区の出身でUターンした女性シェフにこの運営を任せており、利用者は年間2千5百人を超える。地元産薪木を使用した「薪オーブン」で調理するソーセージ、クロワッサンなどが味わえ、女性の人気スポットとなっている。



写真10 農産物直売所
「たけだや」



写真11 シェアハウス
「さわや」



写真12 女性シェフと
ランチ

(4) 共栄会の取組の継続

共栄会の活動は、森林保全に端を発しているが、地区の人口減少、竹田小学校等の廃校、地区の山林や農地の荒廃防止、担い手不足などから、「自分たちのふる里を良くしたい」という思いを実現するために、既存施設等の利活用方針を定めるためのビジョンづくりを行い、このビジョンに沿った地域活動が着実に行われ、徐々にその成果が現れている。

また、既存施設や改修した施設（各拠点）の運営は、共栄会が担っており、坂井市が目指している施設の運営方針とも合致し、行政とも良好な連携が図られている。

条件が不利な山間地域にあつて、地域資源である自然、食、文化を活かすとともに、よそから新たな人材を受入れ、地域の活力をより高めて

おり、「都市農村交流」と「暮らしを支える地域づくり」のモデルと言えるものであり、更なる発展が期待される。